

ごあいさつ

農業総合センターは、平成18年に開所してから、稲作や畑作、果樹、畜産などの生産性や品質の向上のための試験研究をはじめ、「天のつぶ」や「あづましずく」などのオリジナル品種の開発、有機農業など環境と共生する農業の推進、農産物の加工技術の開発、就農を目指す若者の教育・研修などに取り組んできました。

特に、平成23年3月11日の東日本大震災と引き続く原子力災害が発生して以降は、放射性物質の実態の解明やカリ肥料による放射性物質の吸収抑制技術の開発、実際に栽培をして安全性を確認する実証栽培などに取り組み、農業再生を技術面でサポートしてきました。

しかし、未だに浜通りをはじめ、県全体でも農業生産が十分に回復していません。また、原子力災害に伴う農産物に対する風評も色濃く残っているなかで、震災から7年という年月の間に、多くの販売棚が他産地のものに置き換わっています。さらには、農業の担い手が減少し、生産力が低下しています。

このため、農業総合センターでは、安全な農産物を生産し、農業経営が行えるよう技術的にアプローチしていくほか、本県農産物がマーケットで優位性が持てるよう、新たな品種の育成や加工を含めた品質向上のための技術開発などを進めてまいります。さらには、担い手の減少などに対応するため、生産性の向上と省力化のための技術開発や実証などに引き続き取り組んでまいります。

また、この農業総合センターは、多目的ホールや会議室を備えており、農業関係の図書も取り揃え、一般の皆様にもご利用いただいているほか、研究成果なども展示しておりますので、是非、お越しいただきたいと思っております。

今後とも、国の研究機関や大学、民間企業等をはじめ、行政機関とも密に連携しながら、農業の再生に取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

福島県農業総合センター
所長 天 野 亘